

# 「ああ恵み」

～ 恵みに留まっていますか ～

エペソ2：1～10

## ■ 恐れているものと十字架の愛

ある人は人には7つの恐れているものがあると列挙しています。「①貧しさ②失敗（非難）③病気④愛を失うこと⑤老化⑥自由を失うこと⑦死」今の私たちは如何でしょうか。恐れているものがありますか。ある人は愛を失うことを恐れていると、愛を失いたくないと行動していきます。しかし愛されたいと思うばかり、自分から周りを愛することができず、結果として愛を失ってしまうこともあります。私たちが恐れていると、返って失ってしまうこととなります。聖書にはイエス様と12弟子が出てきます。そして12弟子と呼ばれている人たちの元の姿はどのような人だったのでしょうか。彼らも人の恐れている7つの恐れを持っていることが分かります。イエス様が私たちのために十字架にかかって下さったことは知っています。では何を背負って十字架にかかって下さったのでしょうか。それは私たちの抱えている恐れ、また恐れから発生してしまった問題をすべて背負い、十字架にかかったのです。ですから私たちが恐れを抱えていく必要はないのです。しかし私たちは恐れてしまう原因があります。私たちは成長していく中で様々な苦痛を通して恐れを抱くように育ててしまったのです。私たちはこの恐れから解放されるために、過去の傷から解放されるために集められたのです。弟子たちはイエス様の十字架の後、違う人のように造りかえられていきました。このように神様は恐れを解決し、将来と希望を与えて下さるのです。

## ■ 恵み

恵みというのは一方的に与えられたものを意味します。代価を払わずに受けられるものです。受けるには手を差し出すだけです。この将来と希望を与えるものは神様からの恵みです。ただ私たちが手を差し伸ばして受け取るだけなのです。私たちがこの恵みに留まっていれば良いのに、7つの恐れはこの恵みに対して敵対してきます。私たちの中には人間関係の不安、お金に対する不安、病気にに対する不安、危険に対する不安、生活に対する不安、将来に対する不安、これらは恐れと結びつき、人生をダメになる方向へと向きを変えられてしまうのです。私たちはこの不安に対して必要ない決断していかなくてはならないのです。（エペソ2：1～10）私たちは「恵みのゆえに信仰によって救われた」とあります。「信仰によって」とはどのような意味でしょうか。信仰と聞くと、宗教用語として聞こえてきますが、「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたか。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。（黙3：20）」と書いている通り、心の扉を開けることなのです。ですから私たちは目の前にある素晴らしい恵みに対して心の扉を開いた時から新しい人生になるということを伝えているのです。世々にわたる祝福される法則⑤恵みの中に生きるといことなのです。思い出してみましょう。①量りを良くする。②一粒の麦になる③己に勝つ④なぜの目録でした。それぞれ要約をもう一度見直していきましょう。そして最後に「恵みに留まる」のです。神様は私たちが喜んで見たいのです。だからこそ、私たちが恐れているものを背負って下さり、私たちが喜べるようにして下さったのです。これこそ一方的に与えられた素晴らしい恵みです。だからこそ、私たちが元気に勇ましく希望に満ちて歩むことができるのです。これを忘れてしまうので、人の言葉で右往左往する人生だったのですが、今日から新しく歩んでいくことができます。

## ■ 松下幸之助の話

この方は現パナソニックの創業者であり、クリスチャンでした。松下さんは3つの財産がある。と常に語っていました。①貧しかったこと②健康に優れなかったこと。③無学だったこと。だから人が教えてくれたり、助けてくれたりして成功した。と言っています。彼は神様の恵みの中にとどまったのです。このような3つの状況は不平不満の種とすることは簡単にできます。できなかった時の言い訳にすることも簡単です。しかし彼は神の恵みに留まり、「人になるために必要なすべての経験を学んだ」と言っているのです。これが大事なことなのです。彼は素直に周りに聴くこともできました。人は一人ではなにも成しえないことを知っていたからこそ、自分の知識に頼る事をせず、神様と共に正しい決断をして進むことができた。そのように私たちにもすでに助け手が与えられているのです。しかし私たちは大事な助け手を蔑ろにしてしまうのです。そして私たちに聞こえの良い言葉をかけてくれる人を大事にしてしまう弱さがあります。私たちが間違った決断をしている時に戻す言葉をかける人を排除し、同情、同意してくれる人を探してしまうのです。

## ■ イエス様の歩み

イエス様はそれとは真逆の道を選択していきました。多く人が避けて通るところを逃げずに進みました。差別されているサマリア人女性のためにわざわざ遠回りして行きました。また神殿で金儲けをしている商人たちを追い出しました。見て見ぬふりをして逃げることをせず、それと立ち向かっていきました。あるところでは右のほほを打たれたら、左のほほを出すように教えられました。また、ゲッセマネでは自分を捕まえに来た兵士の弟子のペテロに切られた耳を癒しました。神は人として楽な道ではない道、通りたくない道を歩むようにイエスを導き、それに従いました。人にはできないことをさせたのです。

## ■ ①簡単な道を選んでダメだめ

私たちはありのままの姿で神の前に立つことができます。それには条件、資格、資質など、何もありません。どこでも「神様」と呼びかければ良いのです。罪とは「的外れ」です。最初のずれはほんの少しでも時間がたったり、離れていくと、差が大きくなっていきます。ですから私たちは毎週教会に来て、自分のずれを正したところから正して正しい道に戻る決断をしているのです。元の道に戻るためには弓のように弦とフレームが徐々に近づいていくような感じでだんだんと良くなっていくのです。ある本によれば、3歳までの価値観に12歳までの経験を重ねて私たちの土台が成り立ち、40歳で人格が完成するということでした。私たちの記憶の中で覚えていることは良いことよりも悪いことの方が圧倒的に多いのです。この悪い経験が悪い決断を生むようになり、これが積み重なっていくのです。ですからこの根本の原因となっているものを掘り下げて解決していくことをしています。しかし私たちに長い期間をかけて身につけてしまった癖のようなものがあります。これは1度では治るものではありません。意識して、決断して、注意深く歩んでいくしかありません。ですから決して簡単な道ではないのです。「はい」は「はい」「いいえ」は「いいえ」という道なのです。この道は「近道」ではありません。私たちは簡単に戻る方法などないのです。決断をして元に戻る道（日々）をどのように過ごしていくのかが大事なのです。イエスキリストがそのように歩まれたのであれば、私たちが寄り添いながら、元に戻るための働きをしていきたいと思えます。

## ■ ②神の前に出る！！！！

私たちは周りと比較した時から輝くことが出来ず、曇っていきます。私たちが光を放てなくなるのです。ですから神様は私たちが2度と同じ過ちを犯し、曇らないように教えていくのです。私たちはアダムと同じ歩みをし、責任転嫁をして、周囲のせいにする歩みを選択しないようにしなければなりません。相手が悪いという思いは恵みとはかけ離れた状態です。聖書を集約すると「神を愛し、自分自身を愛するように隣人を愛する」ということとなります。すなわち責任転嫁とは隣人を愛することから離れているのです。これは恵みに留まる決断ではありません。クリスチャンとは何かという正しく生きようと決心した人なのです。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えて下さったのです。（エペソ2：10）」イエスキリストやこの歴史を紡いで来られた先人たちは自分の弱さに逃げるようなことはしませんでした。私たちが逃げずに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えて下さったのです。（エペソ2：10）」イエスキリストやこの歴史を紡いで来られた先人たちは自分の弱さに逃げるようなことをせず、神の前に出ることを決断していきましょう。

## ■ ③人の徳を高める言葉！！！！

神の恵みの中に留まるには言葉を制御することだけです。様々なところでペテロに焦点を合わせたメッセージをされていました。このペテロは変わりました。元々漁師であり、また感情的な人でした。マタイ16章で信仰告白をした後、神のことを思わず、人のことを思っているとイエス様に言われたペテロでした。しかし使徒の働きを見ると、神の知恵によって大胆に語り、多くの人に福音が伝わっていきました。私たちは普段の生活の中で、神の言葉を語らず、人のことを思って、間違った言葉を語っていないでしょうか。それは人の徳を高める言葉ではありません。問題と向き合って、戦っている時に励まし支える言葉よりも「無理することないよ～」というような逃げること勧める言葉になっていないでしょうか。これは私たち自分への言葉も同様です。簡単な道と正しい道とどちらかを選択しなければならぬ時に、正しい道を選ばなくするような言葉を選んでいるかもしれない。相手にとって、自分にとって重要な決断があります。その時こそ、どちらを選ばなければならないのかということなのです。決断するのは自分です。決断を鈍らすような諫めるような言葉を語らないようにしましょう。私たちは神様の計画の全容を知ることにはできません。その決断が計画に大きく影響を与えていくものもあります。だからこそ、私たちは毎日の生活の中で周りの人と自分にかける言葉に注意して歩まなければならないのです。特に問題から逃げようとする言葉を発する時、気づいた人が、気づいた時に語り、一緒に恵みに留まれるように折り支えていきましょう。